

<英文法超基礎⑥⑥> Lv.★★★★☆☆ 対象: 中2・3~

① 従属接続詞

話の中心となる英文のカタマリを(1.)といい、文の中で主語や目的語、補語などになったり、修飾語として働くカタマリを(2.)という。その2を作る働きをするのが(3.)である!

→ 3には <4. >と(5.)を導くものがある!

② 名詞節を作る接続詞

名詞節を作るモノは、従属接続詞の(6.)、間接疑問文を作る(7.)、関係代名詞の(8.)がある。

→ それぞれまた詳しく解説するので、今回は **that** だけを取り上げます!

③ 名詞節を作る that

名詞節とは **名詞の働きをする節**、つまり(9.)の働きをする文のこと! (例外はあるけど**前置詞の目的語**にもなれます!)

I don't know <that he is shy> 「私は彼が恥ずかしがりやだと知らない」
 ⑤ ⑥ ⑦ S V C

→ 接続詞の **that** は「10. 」という意味の名詞節になり、文中で S・O・C になる。

[1] Sになる場合

<That he will come (to the party)> is certain.
 ⑤ S V C

→ 名詞節が S になると、アタマでかちな文になるので、(11.)を文頭に置いて、名詞節を後ろに回す! (← 形式主語構文 [L53])

<It> is certain <that he will come to the party>
 S V C

「彼がそのパーティーに来ることは確かだ」

[2] Oになる場合 ← よく省略される!

I believe <that the team will win> 「私はそのチームが勝つと信じている」
 ⑤ ⑥ S V

→ say や believe・think などの(12.)系の V や know などの V の O に that 節が来る場合、この **that** はよく(13.)!

[3] つづき

[3] Cになる場合

The problem is < that he is lazy > 「問題は彼が怠け者だということだ」

< Cになるthat節の頻出表現 >

• The fact is that ~: 「14.

」→ 「15.

• The problem is that ~: 「16.

」→ 「17.

• The trouble is that ~: 「18.

」→ 「19.

→ このthatも (20.) できる!

[4] SVOCのOがthat節の場合

I think < that she told a lie > clear. 「彼女がウリをついたのは明らかだと、私は思う」

→ I think it clear < that she told a lie >.

☆ that節がSVOCのOになるとき、形式目的語の(21.)を用いて、that節は後ろにおく! (← 形式目的語構文[L54])

[4] 時制の一致

that節の中の動詞や助動詞の時制[現在・過去・未来など]を、thatの前の時制に合わせることを「時制の一致」という。

He said < (that) he was busy >. 「彼は忙しいと言った」

He says < (that) he is busy >. 「彼は忙しいと言っている」

※ that節に助動詞を使う場合

He says < (that) he will go there >. 「彼はそこへ行くつもりだと言っている」

He said < (that) he would go there >. 「彼はそこへ行くつもりだと言った」

< 時制の一致の例外 >

She said < (that) she walks every morning >. 「彼女は毎朝歩いていると言った」

I knew < the earth is round >. 「私は地球が丸いということを知った」

→ that節が(22.)や(23.), つまり(24.)系を表すときは、時制の一致の影響を受けない。